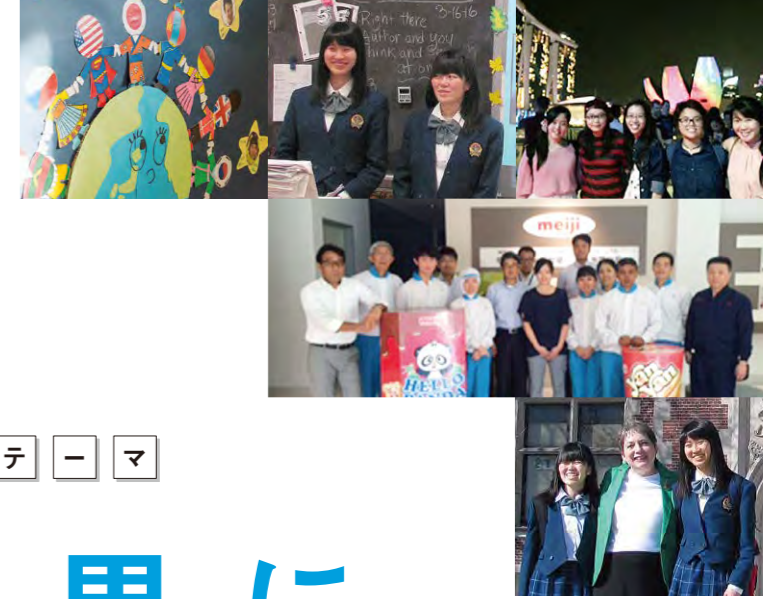




大好きなお菓子で、
世界中の子どもを笑顔に。

Cradle
高校生編集部が行く
スゴハイ²
SUGOI highschool students in Shonai
Supported by
庄内広域行政組合、山形県庄内総合支庁



取 材 テ ー マ

世界に 飛び出す 高校生

将来の夢に近づきたい、さまざまな異文化に触れて世界を広げたい。2回目の「スゴハイ」は、想いを現実のものにするため、シンガポールにニューヨークに飛び出し奮闘する、3名の高校生を紹介します。

鶴岡工業高等専門学校
物質工学科3年
阿部真衣さん



「一番の成果は、将来の夢への道が明確に描けるようになったことです」。官民協働海外留学支援



中国人のルームメイトとインド寺院へ。

じました。得意科目ではないんですが、夢の実現のため頑張っていたと思います。

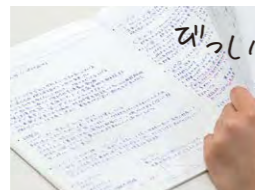
今回の留学で、阿部さんはナンヤン・ポリテクニクでも食品化学の研究を行っている。「ポリテクニクは、日本の高専のような教育機関です。充実した研究ができたことはもちろん、外国人留学生同士で共同生活をしたことがすごくいい経験になりました。英語での会話にはじめは戸惑いましたが、最後は大笑いながら話ができるまでになりました」と笑顔で振り返る。「初めてだらけの毎日で、人間として、特に自分に足りなかった積極性という部分で大きく成長できたと思います。とても視野が広がるプログラムなので、多くの高校生に思い切って挑戦してほしいですね」。



中国からの留学生と協力して実験に取り組む。

部さんは諦めず、想いを伝えたい一心でメイジセイカ・シンガポールに手紙を書いた。「貧困に苦しむ子どもには栄養満点のお菓子を、肥満に苦しむ子どもにはヘルシーでおいしいお菓子を届け、世界中の子どもを笑顔にしたい」。阿部さんの強い想いは、メイジセイカ・シンガポールの人たちの心を動かし、無事インターン生として受け入れてもらえることになった。研究開発、商品開発、品質管理など、短期間でさまざまな研修に取り組んだ阿部さん。野菜パウダー入りのクラッカーづくりを行った研究開発研修では、パウダーの量や種類、混ぜる順番などを細かく検証しながら、本格的な開発に挑戦した。「研修を終え、生物をもっと学ぶ必要があると感じ

私たちが真衣さんを取材しました！



研修中のメモは、復習も兼ねて必ずその日のうちにノートに書き写していた。





春休み、英語のクラスで教鞭を執るジョー先生とともにニューヨークに渡り、約1週間の研修を行ってきたという遠藤さんと鈴木さん。2人には「現地の高校生に日本の文化を紹介する」というミッションが課されていた。

「羽黒山というテーマは決まっていたんですが、内容を考えるのはなかなか大変でした」と遠藤さんは言う。山岳信仰や修験道など、日本人の大人相手でも説明するのが難しいトピックが目白押しで、外国人の高校生でも理解しやすいプレゼンテーションを組み立てるのは想像以上の大仕事だっただろう。「学校行事で羽黒山には毎年登っているんですが、改めて調べてみると発見がとて多かったです。調査のために山に入り、初め



学校を飛び出し、世界の文化と交流する。



メトロポリタン美術館は、1日かけても見きれないほどの広さ。

て冬の羽黒山を体験したんですが、雪をかぶった五重塔はとても雰囲気があったてきれいでした。さまざまな資料を読み、知恵を出し合い、渡米ギリギリまでプレゼンテーションの準備は続いた。そうして迎えた当日。入念な準備と、前日訪問したモノロー大

対し、「まったく緊張せずに楽しく発表できました」と鈴木さん。「日本の文化に触れる機会が少ないこともあり、興味津々にプレゼンテーションを聞いてくれました。途中に入れたクイズも、全員で楽しんでくれて嬉しかったです。」

9・11博物館やタイムズスクエア、グッゲンハイム美術館、メトロポリタン・オペラなど、さまざまな「ニューヨーク」を体験してきた2人。「すべてが新しく、楽しかった」と言う一方で、「もっと英語ができれば、もっともっと楽しめたはず」と口を揃える。「自分の世界を広げるため、将来に英語力を活かすため、これまでに以上に英語の勉強を頑張りたいです。」

この経験が、2人の中で花開く日もそう遠くはないようだ。

編集・文：Cradle 高校生編集部、工藤 拓也
写真：間 真由美
協力：鶴岡工業高等学校、羽黒高等学校
鶴岡北高等学校

編集後記

貴重な体験をした方にお話を聞くことができ嬉しい。自分自身も海外に興味があるので、自分のためにもなったと思う。インターシップなど進路に活用できるような話も聞け、考えさせられた。私も視野を広げるために積極的に活動したいと思った。鶴北高新聞部で初めて担当し、不安だったが、部員皆に協力してもらいながら記事を完成させることができて本当によかった。(さとみ)

今回が、初めての鶴北高新聞部編集「スゴハイ」の取材だったが、部員同士協力し合い、限られた時間の中で無事に記事を書き上げた。学校を飛び出してさまざまな活動を行っている高校生の方々に話を聞くことができ、記事を書くためだけでなく、これからの自分のためにも学べたのではないと思う。今回のように、他校の生徒に詳しく話を聞ける貴重な体験ができて本当によかった。(まなつ)

編集部員 & 特ダネ
まだまだ募集中!

鶴北高新聞部と一緒に「スゴハイ」の企画制作をやりたい高校生、「こんなスゴい高校生知ってる」「私、スゴいんです」などスゴい高校生の情報は随時募集中です。お気軽にご連絡ください。

ご応募・お問い合わせ先
Cradle事務局
info@cradle-ds.jp



羽黒高校からのきれいな風景

最後はみんなで記念撮影しました!

質問する順番は、昨日の部活で話したとおりね。



初取材へ!



プレゼンテーション後、現地の先生、生徒たちと。